

大猷院殿即日記一

十八年七月慶安二年十二月廿一日出され

伊書院番列按ては家傳は伊小性組より今日記より同二年

九月西城より伊小性組より後され

家傳より今の小普請松平十次郎光信より

松平

新助源忠澄按ては松平系譜集参考次郎右衛門

忠恒忠恒より三河より生る祖父圖書助親友

々次郎右衛門光親より一男より寛永一

重友重友と名のる按ては松平系譜集参考より孫を佐木の本松平と稱せしと記せ三河

國西野合戦時討死より家人七八人

また戦死寛永家譜父忠恒より三河より生る

寛永親忠君よりはうより木村新九郎某

異公の時親忠若松平隼人同彦九郎は
 命して志しを討せしむるあ人松平
 事を果すと忠恒遂に其を誅す付
 十七年を其勇を賞せしむる二河國
 松平村梨野村松本村を授けし
寛永藩
家譜
 享祿元年六月七日に死す
松平系譜
参考
 法名を
 春悦とす
寛永藩松平
系譜参考
 忠澄
 東照宮岡崎より

二河國額田郡のうら土呂遠江國平口
寛永藩松平
系譜参考
 二河貫文此地を授けし
 弘治元年今川義元尾張國蟹江城を
 攻けし松平和泉守家乗より
 戦功あり
武徳大
成記
 其年正月廿二日死す
 法名を道林とす
寛永藩松平
系譜参考
 其子新助
 忠綱は二河よける天正十二年蟹江合戦
 のとき二十二歳にして討死す法名宗風

寛永齋松平系譜集参考 ○ 按とらるゝ寛永齋
一 二月十日一 家譜及び松平系譜集参考は二月十日
その

子新助親正 按とらるゝ松平系譜集参考は後世に
家譜のハ水戸家附属の後世に可正トリト記す

東照宮一氏よりまつり慶長五年

關原陣の附供奉は其のち伏見に

存して伊勢勅札を奉りつる大坂陣

の時り〜とされ供奉〜 寛永のち

小十人〜 家

東照宮薨御の後ハ水戸中納言頼房卿

小附屬せられ 寛永 そのち松平禰景也

頼重〜 寛永 のちの家一氏

松平系譜
集参考